

認知症の告知に関して

認知症の告知の是非について
教えてください

回答者 繁田 雅弘

近年の告知状況

医療行為に際して、医師は事前に説明し同意を得なければならぬ。このインフォームド・コンセントに際して提供すべき情報の中で、診断名を本人に告げる行為が告知である。また、病名だけでなく予後など疾患の特性についても告知に含まれるものである¹。しかし従来、このことに医療従事者は積極的ではなかった。1990年代に英国の老年科医や一般開業医を対象

に行った調査では、認知症であることを本人に伝えていたのは4割にすぎなかった^{2,3}。一方、適切な洞察力を持つ患者が半数程度対象に含まれていた調査では、患者は自分の困難な状況についてもっと知り、病気について誰かと相談したかったと回答している⁴。最近の英国における調査で、もの忘れ外来を受診した軽症認知症を対象にして面接を行ったところ、9割を超える患者が告知を望み、治療に関しての医師とのやり取りを希望したという⁵。本邦においても、大学病院のもの忘れ外来を受診した軽症（長谷川式スケール平均20・5点）のアルツハイマー病を患う患者本人に対して告知の調査が行われ、96%が告知を希望し、80%が家族よりもまず自分に話してほしいと回答している¹。

告知を行う意義

告知もインフォームド・コンセントと同様

次の二つの権利を守るために行われる。一つは

“知る権利”である。他でもない自分自身の病

気について知る権利が本人にはある。治療の意義や目的を適切に理解するためにも、病気そのものを知ることが出発点である。もちろん“知る権利”と共に“知らされない権利”もある。知りたくないという意思表示がなされた場合、告知はすべきではない。ただし日本ではとくに患者が医師に気兼ねして、必ずしも知りたい・知りたくないといった意思表示を明確にすることは限らない。したがって患者からの意思表示がないからといって医師が一方的に判断してしまふことには問題がある。

二つめは“決定する権利”である。例えば、治療などの医学的対応や社会福祉資源の利用について、あるいは財産などの管理・処分について、今後の人生をどのように生きるのか、自身の処遇などに係わる判断を誰に委ねるのか、そうした点について自己決定する権利である。これらの判断は本人の意思に基づいて行われるべ

きだからである。

臨床医が告知を躊躇する理由

アルツハイマー病の場合、とくに告知の是非が問題となるような軽症の場合は診断が確定していない。経過を追った結果、診断が変更されることがあるかもしれない。すなわち確定できない診断を患者に伝えた結果、不必要な不安を与えることは望ましいことではないとする意見がある。しかし患者は病名を聞かなければ安心していられるのだろうか。むしろ診断が確定していないから、告知をすべきなのではないだろうか。「診断のことは考えなくてよいから、とにかく薬を飲むことです」と医師がすべてを引き受けるのはむしろ診断が確定している場合ではないか。診断が疑い程度ならば「症候や経過からアルツハイマー病が考えられるので、治療を行いながら経過を追ってみましょう」と担当医の考えを正確に伝えることが患者に対する誠実

な態度ではないだろうか。

告知をすることで精神的な衝撃を与えるのではないかとする意見がある。確かに悪い知らせであることに間違いはない。しかし患者は、自分の記憶力の低下や生活上の失敗の原因が分からぬままに混乱し不安になっている。このことを考えれば、悪い知らせではあるものの、担当医が病気についてきちんと把握していることを知らせ、治療を含めできる限りの協力を惜しまない姿勢を示すことが、患者の不安や恐怖の軽減につながるものと思われる。薬物療法などの治療を開始する以上、治療の効果や副作用について何らかの説明をすることは必要である。当初告知を躊躇した場合でも、検査結果や治療の説明をしながら、この患者の場合はこのように告知を行うかを考えておき、担当医が覚悟を決めておくと、告知の機会は意外と早く訪れることを筆者は経験している。

(首都大学東京 健康福祉学部 学部長)

文献

- 1) 高橋忍、新妻加奈子、小野寺敦志ら：痴呆患者への病名告知の研究、アルツハイマー型痴呆患者本人の意向、老年精神医学雑誌、16、471～477(2005)
- 2) Vassilas, CA, Donaldson, J.: Telling the truth: what do general practitioners say to patients with dementia or terminal cancer? *Br. J. Gen. Pract.*, 48, 1081～1082 (1998)
- 3) Rice, K., Warner, N.: Breaking the bad news: what do psychiatrists tell patients with dementia about their illness? *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 9, 467～471(1994)
- 4) Marzanski, M.: Would you like to know what is wrong with you? On telling the truth to patients with dementia. *J. Med. Ethics*, 26, 108～113(2000)
- 5) Pinner, G., Bouman, WP.: Attitudes of patients with mild dementia and their carers towards disclosure of the diagnosis. *Int. Psychogeriatr.*, 15, 279～288(2003)